

製品名: リン酸化タウ (S324) (14G5) ウサギモノクローナル抗体**カタログ番号: AMRe06031**

研究使用のみ

概要

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB, ICC/IF
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	0.5mg/ml。本製品の濃度はロットによって異なる場合があります。
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	ウサギ IgG（リン酸緩衝生理食塩水、pH 7.4、150mM NaCl、0.02% 新型保存料 N、50% グリセロール含有）。短期保存は+4°C、長期保存は-20°Cで保存してください。凍結融解サイクルは避けてください。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:2000-1:20000, ICC/IF 1:100-1:200
分子量	79kDa

抗原情報

遺伝子名	MAPT
別名	MAPT; Microtubule-associated protein tau; MTBT1; Neurofibrillary tangle protein; Paired helical filament-tau; PHF-tau;
遺伝子 ID	4137.0
SwissProt ID	P10636
免疫原	ヒトタウの Ser324 を囲む残基に対応する合成リン酸化ペプチド

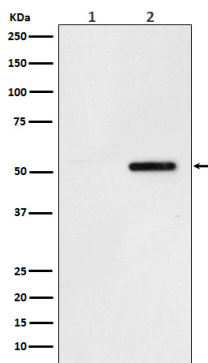
背景

タウは、特に軸索において、微小管の組み立てを促進・安定化させる、異質な微小管関連タンパク質です。アミノ末端挿入配列とカルボキシ末端付近のタンデムリピート数が異なる 6つのアイソフォームが同定されており、ERK、GSK-3、CDK5によって約 25箇所 で過剰リン酸化されます。リン酸化は、タウの微小管への結合能を低下させます。タウは微小管の組み立てと安定性を促進し、神経極性の確立と維持に関与している可能性があります (PubMed:21985311)。C末端は軸索微小管に結合し、N末端は神経細胞膜成分に結合することから、タウは両者間のリンカータンパク質として機能することが示唆されています (PubMed:21985311、PubMed:32961270)。軸索の極性は、神経細胞内の TAU/MAPT の局在によって決定され、中心体によって定義される細胞体領域に局在する。短いアイソフォームは細胞骨格の可塑性を可能にする一方、長いアイソフォームは細胞骨格の安定化に優先的に関与すると考えられる。

研究分野

MAPK_ERK_Growth;MAPK_G_Protein;アルツハイマー病

画像データ



(1) SH-SY5Y 細胞溶解物、(2) オカダ酸およびカリクリン A で処理した SH-SY5Y 細胞溶解物におけるリン酸化タウ (S324) 発現のウエスタンブロット分析。